

世界最高峰黄金の調べ

ベルリン・フィル Philharmonic Octet Berlin 八重奏団

選ばれしソリストたちが贈る **オール八重奏曲**
精緻なアンサンブルが織り成す 頂点のハーモニー

ヴィルトゥオーゾ
8人による超一級アンサンブル



スラヴの薫り漂う優雅な5曲を本八重奏団のための特別編曲で **ドヴォルザーク：5つのバガテル（八重奏版）** Dvořák: Five Bagatelles, op.47

後期ロマン派の流れを汲む作曲家の知られざる名曲 **フーゴ・カウン：八重奏曲 へ長調 op.34** Hugo Kaun: Octet in F major, op.34

この曲を演奏するために結成された本八重奏団の代名詞 **シューベルト：八重奏曲 へ長調 op.166, D803** Schubert: Octet in F major, op.166, D803

2026

2/23

(月・祝) 2:00PM 開演(1:15PM 開場) A 6,000円 B 4,500円 C 3,000円 D 2,000円(税込/全席指定)

榎本大進(第1ヴァイオリン)、ロマーノ・トマシーニ(第2ヴァイオリン)、アミハイ・グロス(ヴィオラ)、オラフ・マンニガー(チェロ)
エスコ・ライネ(コントラバス)、ヴェンツェル・フックス(クラリネット)、シュテファン・ドール(ホルン)、シュテファン・シュヴァイゲルト(ファゴット)

ご予約・お問合せ **芸術文化センターチケットオフィス 0798-68-0255** 兵庫県立芸術文化センター **KOBELCO** 大ホール
10:00AM-5:00PM 月曜休み ※祝日の場合翌日 〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 阪急西宮北口駅南改札ロスグ/JR西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

一般発売
10/19(日)

チケット
予約

●芸術文化センター 0798-68-0255 <https://www.gcenter-hyogo.jp> 芸術文化センター会員先行予約受付開始 10/18(土)
●チケットぴあ <https://pia.jp/t/> ●ローソンチケット <https://l-tike.com> ●イープラス <https://eplus.jp>



直接購入 芸術文化センター2階総合カウンター【10/21(火)より、残席がある場合のみ】 主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

※未就学児童のご入場はご遠慮ください。 ※やむを得ない事情により、出演者、曲目等が変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。 ※プレイガイドでの販売はインターネットのみです。詳細については各プレイガイドにお問合せください。



ベルリン・フィルが誇る8人のトップ奏者による伝統と栄光のアンサンブル



2017年KOBELCO大ホール公演より
© 飯島隆

まさに世界最高峰。ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のトップ・プレイヤー8人による超一級アンサンブルが、コロナ禍における公演中止を経て、実に8年ぶりとなる待望の再登場です！**ベルリン・フィル八重奏団**は、同管弦楽団の中でも特に古い歴史と伝統をもつ八重奏団（オクテット）。芸術文化センターでも大人気、第1コンサートマスター**榎本大進**をはじめ、クラリネットの**フックス**、ホルンの**ドール**ほか、精鋭メンバーが勢揃いします。

室内楽をこよなく愛するメンバーの、音楽への深い愛情が湧き出すようなプログラム。まずは、日本のお客さまへの「感謝の気持ち」の現れだとドールが語るドヴォルザーク「5つのパガテル」でご挨拶。続く**フーゴ・カウン「八重奏曲」**は、ベルリン生まれ、ベルリンで没したカウンによる隠れた名曲です。榎本大進が気に入り、2020年のツアーにあわせて用意されたものの、日の目を見ることはかなわなかった作品を、満を持して演奏する——これはもう聴き逃せません。そしてやはりメインディッシュは、「比類なく美しい曲」とメンバーが絶賛するシューベルト「八重奏曲」。豊かな詩情と精緻なアンサンブルが織り成す、本八重奏団の代名詞とも言われる演奏を、心ゆくまでご堪能ください。選ばれしソリストたちが贈る、このメンバーでしか表し得ない音楽の高みを、どうぞお楽しみに。

ベルリン・フィル八重奏団 Philharmonic Octet Berlin

ベルリン・フィル八重奏団は、結成から80年以上という、ベルリン・フィルハーモニーのメンバーが組織する多くの室内楽アンサンブルの中で、もっとも長い歴史と伝統をもつ団体のひとつである。その歴史は、1928年、8人の楽員たちがシューベルトの八重奏曲を演奏するために集まったところから始まった。メンバーは現在に至るまで、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のトップ奏者および世界第一級の演奏家によって構成されており、ヨーロッパをはじめ、世界の諸都市で演奏活動を行っている。当初はヨーロッパを中心に活動していたが、1954年、初めて7週間の南米ツアーを行い、この頃から始まったアメリカ合衆国、カナダへの再三にわたる演奏旅行で成功をおさめた。その後、アフリカ、韓国、中国、マレーシア、ニュージーランド、オーストラリア、旧ソ連、イスラエルなどの各国や、ザルツブルク、ルツェルン、エディンバラ、ベルリンなどの国際音楽祭にも度々招かれ、日本には1957年の初来日以後、定期的に来日している。また1982年には、ベルリン・フィルの創立100周年記念演奏会にも参加した。レパートリーは、ウィーン古典派からロマン派の音楽を中心に幅広く、この編成ならではの編曲作品も含まれている。また1958年、ヒンデミットがこの八重奏団のために八重奏曲を作曲し、自らヴィオラを担当して歴史的初演を行ったのははじめ、ヘンツェ、ブラッハー、テリヒェン、シュツックハウゼン、イサン・ユン、細川俊夫などの著名現代作曲家が、彼らのために作品を残している。



榎本大進 (第1ヴァイオリン) Daishin Kashimoto, 1st Violin

1996年のフリッツ・クライスラー、ロン＝ティボーでの1位ほか、5つの権威ある国際コンクールにて優勝。2010年ベルリン・フィルの第1コンサートマスターに就任。2007年より赤穂国際音楽祭、2008年より姫路国際音楽祭の音楽監督を務める。使用楽器は、株式会社クリスコ（志村晶代表取締役）から貸与された1744年製デル・ジェス「ド・ベリオ」。



ロマーノ・トマシーニ (第2ヴァイオリン) Romano Tommasini, 2nd Violin

イタリア人の両親のもと、ルクセンブルクとフランスで育った。パリで音楽教育を受け、1983年に修了。ナンシー管弦楽団の第1コンサートマスターを務めた後、1989年にベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の一員となった。



アミハイ・グロス (ヴィオラ) Amihai Grosz, Viola

1979年イスラエル生まれ。デイヴィッド・チェン、タベア・ツィーマン、ハイム・タウプに師事。エルサレム弦楽四重奏団の設立メンバー。2010年よりベルリン・フィル第1首席ヴィオラ奏者として入団。楽器は、ガスパーロ・ダ・サロの1570年製のヴィオラ。プライベート・コレクションより、彼に生涯を通じて貸与されている。



オラフ・マニングガー (チェロ) Olaf Maninger, Cello

ヤーノシュ・シュタルケル、ボリス・ベルガメンシコフに師事。1995年ベルリン・フィルに入団し、翌年ソロ・チェロ奏者に昇格。現在、同団のメディア代表兼取締役および財団役員を務める。「ベルリン・フィル12人のチェリストたち」のメンバー。



エスコ・ライネ (コントラバス) Esko Laine, Contrabass

1961年、ヘルシンキ生まれ。18歳でフィンランド国立歌劇場のメンバーとなった。1986年以来、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席コントラバス奏者を務め、ソリストとしても演奏している。



ヴェンツェル・フックス (クラリネット) Wenzel Fuchs, Clarinet

オーストリアに生まれ、ペーター・シュミードルに師事。ウィーンで学んだ後、1993年からベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席クラリネット奏者となった珍しい経歴の持ち主。名手ライスターの後を継ぎ、類い稀な美音で世界中の奏者、聴衆から注目を浴びている。



シュテファン・ドール (ホルン) Stefan Dohr, Horn

エッセンとケルンで学び、フランクフルト歌劇場管弦楽団、ニース・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団の首席ホルン奏者を経て、1993年ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席ホルン奏者となる。これまでに彼に捧げられた多くのホルン協奏曲の初演を行なっている。



シュテファン・シュヴァイゲルト (ファゴット) Stefan Schweigert, Fagott

1985年からベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席ファゴット奏者を務める。これまでにシャルーン・アンサンブル・ベルリンのメンバーとしても活動。ヨーロッパ室内管弦楽団やギドン・クレーメル主宰のロッケンハウス音楽祭への音楽祭などにも多数出演。1987年以降はベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のカラヤン・アカデミーで教鞭を執る。

